

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600699		
法人名	TNふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 1階		
所在地	苫小牧市拓勇東2丁目17番29号		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JirvosvoCd=0193600699-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御家族や御本人の意向や要望を伺い、本人状況に合わせたプランを立案し支援に繋がるよう心掛けている ・季節や馴染みの行事や誕生日会等は手作りにこだわり取り組んでいる ・誕生日会ではその方や御家族に御本人の好みをお聞きし昼食やケーキを準備し提供している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ふれあいの里グループホームたく遊」は、JR沼ノ端駅からバスで数分の幹線道路に面した住宅地に立地している開設4年目の事業所である。居間や食堂などの共用空間を中心に居室が配置された造りで、明るく開放感のある室内には季節感のある装飾がさり気なく施され、家庭的な温もりが感じられる。業務日誌に理念の文言を記入して毎日確認することで、全職員がしっかり理解し日々実践につなげている。運営推進会議は、出前講座など毎回テーマを設けて実施して参加者と活発な意見交換を行っている。感染症の収束状況を見ながら外出を再開し、地元の洋菓子店や観光名所、紅葉見学などに積極的に出かけている。夏祭りにボランティアのマジックを楽しんだり、敬老会では職員が出し物を披露するなど年間を通して多くの行事を催している。ケアマネジメントでは、利用者の様子を詳しく伝えて家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画に反映させている。栗羊羹やスイートポテトのおやつ作りをしたり、誕生日当日は、本人の好きな食事でお祝いしている。管理者は、職員が毎日楽しく仕事に従事できるように話に耳を傾けて働きやすい職場環境を整備しており、離職率が低い事業所である。管理者を中心に全職員で前向きに仕事に取り組む、一人ひとりに応じた適切なケアを行っており家族との信頼関係も深められている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットと玄関前エレベーターの上に理念を掲示し月初めに職員が交代で月の目標に理念を組み込み変更し周知している	基本理念に「地域の方々との交流を大切にし、和やかな時間を過ごせるよう支援します」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。理念の一部を業務日誌に記載することで全職員が理解を深め、日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を再開し町内会長や東包括支援センター職員、介護福祉課職員や御家族に参加して頂き交流している	感染症流行のため町内会行事には参加していないが、事業所の餅つきで町内会の臼と杵を借りている。庭の草むしりや散歩で、近隣住民と挨拶を交わしたり話をしている。事業所の夏祭りではボランティアのマジックを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を再開し町内会長や東包括支援センター職員、介護福祉課職員や御家族に参加して頂き交流している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や事故報告、避難訓練内容の報告、年間行事の意見交換等でサービス向上に活かしている	6月から対面会議を行い、感染対策や市の出前講座などテーマを設けて実施している。意見交換も活発に行われているが、今後はテーマに沿った簡単な資料も議事録に添付し、参加できない家族の質問や意見も会議に反映させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区分変更や更新等での認定調査や運営推進会議に参加してもらい協力関係が築ける用取り組んでいる	書類に関して電話で確認することもあるが、提出する時はほとんど市役所に出向いている。運営推進会議の案内や議事録も持参している。常に情報交換をして、各担当者と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず研修を実施し3か月に1回の担当者会議6か月に1回全職員対象の研修(事例検討)を行っているカンファレンス会議でも課題にし共通意識を持ち可能な限り本人の思いに沿ったケアに努めている	マニュアルを整備し、年1回全職員に「禁止の対象となる具体的な行為」を配布している。3か月ごとに不適切防止委員会を実施し、研修も年2回行っている。ユニット玄関と裏口にセンサーを設置して利用者の出入りを把握し、出かけようとした時は一緒に外出するなど柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の担当者会議6か月に1回全職員対象の研修(事例検討等)を実施している カンファレンス会議にも課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を必要必要としている入居者がいない為積極的には取り組んでいない 今後研修参加する等して必要に応じて対応出来るよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明及び契約書を持ち帰りじっくり御読み頂くようお願いし同意して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン変更時には必ず御本人のや御家族に意向を伺いプランに組み込むよう努め面会や電話でお話が出来るときには本人状況を説明し意見や意向を伺い日頃のケアや運営に取り組むよう努めている	面会時や電話、介護計画の更新時などに家族の意見や要望を聞き取り、タブレット端末の「ケース」に記入している。些細な意見も分かりやすいように、記録方法を変更したいと考えている。毎月「たく遊便り」と担当職員からの個別便りを送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプラン立案時には担当職員や他職員の意見をユニットリーダー(計画作成担当者)が取りまとめ会議参加者で検討し各ユニットで共有している	管理者は、楽しいと思って仕事に来て欲しいという考えで、普段から各職員の話に耳を傾けている。職員の提案を受けて利用者への対応や食事介助方法を変更したり、勤務時間の調整なども行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心が持てるよう資格所得の研修参加に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した課題で研修に取り組めるよう設定している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成担当者は電話やオンラインでの研修等で交流する機会を設けているが他職員は積極的に参加する事が出来ない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者相談時には必ず御本人や御家族と面談し各自に要望や意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減されるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人や御家族の不安や困り事を共有しながら御本人の生活がサポート出来るよう心掛け 面会時や電話等でも御相談頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向、要望を伺い御家族、御本人の双方が納得出来るよう提案、相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事には取り組んで頂き一方的ではなくどうしたらよいか等、共に考え提案し自己決定の場面が増えるよう努める事を心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下による危険リスクは事前に説明させて頂き御家族の精神的負担の軽減に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に取り組む事は出来ていないが面会は居室で15分過ごして頂き電話等も取り次ぎ楽しい時間を過ごされるよう努めている	友人が手紙を持って訪ねて来たこともあるが、ほとんどは家族や親族との交流になっている。職員と一緒に地元の洋菓子店に出かけてソフトクリームを食べたり、樽前神社や金太郎池などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムを崩されず無理のないよう円滑な関係が保てるよう心掛けている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況に合わせ電話等で対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを尊重し自己決定を促しながら行えるよう努めている	ほとんど会話から思いや意向を把握することができるが、表情から読み取ることもある。「私の暮らし方シート」に追記している趣味や嗜好などは、変化が分かるように具体的に記入したいと考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前担当者や御家族から自宅での生活状況を伺い日々の生活に組み込めるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメントや会話、心身状況を要観察し変化に合わせたケアが行えるよう努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の意向を伺い、現心身状況に合ったケアを立案できるようカンファレンス会議や担当者会議で意見交換し介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。利用者の様子を詳しく伝えて家族の意向を聞き取り、介護計画に反映させている。日々の記録は、サービス項目を意識しながらタブレット端末に記入している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や業務日誌、申し送りノート等を活用し情報共有に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々御本人や家族状況を把握し状況に合わせたサービスが出来るよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に行っていないが今後機会があれば取り組みを検討したい			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診の対応を行い検査結果や服薬変更等御家族に報告すると共に月2回の訪問看護に相談し指示を仰いでいる	主に職員が同行し、協力医療機関に全員が通院している。利用者の健康状態は、書面や口頭で詳細に伝えている。医療関係は「看護記録」とタブレット端末に記入している。		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している協力医療機関や薬剤師に相談し合える体制であり情報共有に努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医療関係と情報共有し御家族の意向を受け入れながら相談出来る体制作りを努めている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に医療行為が常に必要になった場合の説明を行い 日々の生活に中での体調の変化や対応、予測される状況も事前にお伝えし事業所での対応を説明している	利用開始時に、指針に沿って食事が摂れなくなったり医療行為が必要になった時は対応が難しいことを伝えている。「入居時リスク説明書」を作成して署名捺印を得ている。体調変化に応じて関係者で方針を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、災害訓練を入居者とともに実施してる	年2回、夜間の火災を想定した自主訓練を行っている。地域との協力体制は確認しているが、感染症流行のため消防署と地域住民の参加は得ていない。来年度は職員の救命講習を計画的に進める予定である。	感染症の収束状況を見ながら、消防署と地域住民の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。また、室内の危険箇所を全職員で確認し、ケア別の個別対応についても話し合うよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いに反した声掛けをしないよう職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損なわないよう務めた対応を心掛けている	本人の希望で愛称で呼ぶこともある。申し送りはインシヤルや書面を使いながら行っている。個人情報記載の書類は事務所のキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で御本人の思いや意向を伺い自己決定されるよう促している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務時間帯によって職員側の動きになっている様子も見られている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人に出来る事はしてもらい起床時の衣類や整容に清潔感が感じられるよう心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや食事の下準備や後片付けにも出来るだけ参加されるよう声掛けし関わりを楽しみが感じられるよう心掛けている	法人作成の献立を使用している。利用者と育てたトマトやきゅうりなどが食卓に並ぶこともある。季節に合わせて桜餅やおはぎ、スイートポテトなどの季節のおやつ作りも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てている 個々の摂取状況に合わせた形態や盛り付けで食べやすいように工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを実施して 自身で出来る方方にはしてもらい仕上げ磨きが必要な方には介入している マウスウオッシュでうがいされる方の介入も実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者は基本トイレでの排泄の促しを心掛け 尿意便意の確認を行い排泄誘導、排泄記録で時間間隔の把握に務めている	自立している利用者もいる。排泄チェック表で時間帯や様子を見ながら適切な声かけ誘導を行い、可能な限り昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。1日一度はトイレへ誘導することで、排泄の自立へとつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整を行うと共に牛乳やヨーグルトや御家族の意向でヤクルト等の乳酸飲料を提供する等し排便時には腹部のマッサージをする等して対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが受診や本人不調等で入られない場合は時間や曜日に取られず週2回は入浴されるよう務めているが無理な時には清拭等での対応している	日曜日以外で、一人当たり週2回程の入浴を行っている。入浴介助専門のスタッフもおり、同性介助にも対応している。利用者は好みのシャンプーなどを使用する他、備え付けられているミストシャワーを楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に応じて日中の休息を促す等して対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のセットは提携している薬剤師が対応し毎日の提供準備セット、確認、提供者は責任をもって対応し薬情をファイリングしいつでも確認出来るよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事、出来る事にやりがいを感じられるよう心掛け季節の行事に楽しんで参加され気分転換が出来るよう支援している		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に実施していないが車での外出や車中での飲食(ソフトクリーム等)を楽しめるよう支援している	天候のよい日は、事業所周辺や近隣の公園に散歩に出かけている。ドライブで桜や紅葉見学などの外出を行っている。プランターで育てている野菜の手入れや、雪かき、草むしりなどをする方もおり、日常的に外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品や床屋代、医療費はホームの立替金を使用し自身で買い物する支援は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等本人が希望されたときは都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのホワイトボードを使用し季節を感じられるような環境作りを工夫している	対面式のキッチンに面しているリビングは大きな窓から陽が差し込み、明るく開放的な空間になっている。高さ調節可能な食卓テーブル、エアコンや加湿器なども設置されている。壁面には、利用者の写真を載せた毎月の便りなどが掲示されており家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや食席でテレビを観たりおしゃべりやレクリエーションに参加したり個々に居室に自由に戻り過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの備え付けの物や御家族が準備された物や自身の馴染みの物で本人状況に合わせた危険の無い環境作りに取り組む工夫している	クローゼットと見守り用のカメラが設置されている。タンスなどの使い慣れた家具や、仏壇、テレビなどを持ち込んでいる方もいる。ぬいぐるみや壁面に写真を飾るなど、個々に合わせた居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口や他戸口にわかりやすい目印を工夫し迷わない動きが出来るよう心掛けている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600699		
法人名	TNふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 2階		
所在地	苫小牧市拓勇東2丁目17番29号		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御家族や御本人の意向や要望を伺い、本人状況に合わせたプランを立案し支援に繋がるよう心掛けている ・季節や馴染みの行事や誕生日会等は手作りこだわり取り組んでいる ・誕生日会ではその方や御家族に御本人の好みをお聞きし昼食やケーキを準備し提供している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0193600699-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットと玄関前エレベーターの上に理念を掲示し月初めに職員が交代で月の目標に理念を組み込み変更し周知している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を再開し町内会長や東包括支援センター職員、介護福祉課職員や御家族に参加して頂き交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を再開し町内会長や東包括支援センター職員、介護福祉課職員や御家族に参加して頂き交流している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や事故報告、避難訓練内容の報告、年間行事の意見交換等でサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区分変更や更新等での認定調査や運営推進会議に参加してもらい協力関係が築ける用取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず研修を実施し3カ月に1回の担当者会議6カ月に1回全職員対象の研修(事例検討)を行っているカンファレンス会議でも課題にし共通意識を持ち可能な限り本人の思いに沿ったケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回の担当者会議6カ月に1回全職員対象の研修(事例検討等)を実施しているカンファレンス会議にも課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を必要必要としている入居者がいない為積極的には取り組んでいない 今後研修参加する等して必要に応じて対応出来るよう努めている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明及び契約書を持ち帰りじっくり御読み頂くようお願いし同意して頂いている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン変更時には必ず御本人のや御家族に意向を伺いプランに組み込むよう努め面会や電話でお話が出来る時には本人状況を説明し意見や意向を伺い日頃のケアや運営に取り組むよう努めている			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプラン立案時には担当職員や他職員の意見をユニットリーダー(計画作成担当者)が取りまとめ会議参加者で検討し各ユニットで共有している			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心が持てるよう資格所得の研修参加に取り組んでいる			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した課題で研修に取り組めるよう設定している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や計画作成担当者は電話やオンラインでの研修等で交流する機会を設けているが他職員は積極的に参加する事が出来ていない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者相談時には必ず御本人や御家族と面談し各自に要望や意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減されるよう取り組んでいる			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人や御家族の不安や困り事を共有しながら御本人の生活がサポート出来るよう心掛け 面会時や電話等でも御相談頂けるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向、要望を伺い御家族、御本人の双方が納得出来るよう提案、相談に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事には取り組んで頂き一方的ではなくどうしたらよいか等、共に考え提案し自己決定の場面が増えるよう努める事を心掛けている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下による危険リスクは事前に説明させて頂き御家族の精神的負担の軽減に努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に取り組む事は出来ていないが面会は居室で15分過ごして頂き電話等も取り次ぎ楽しい時間を過ごされるよう努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活リズムを崩されず無理のないよう円滑な関係が保てるよう心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況に合わせ電話等で対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを尊重し自己決定を促しながら行えるよう努めている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前担当者や御家族から自宅での生活状況を伺い日々の生活に組み込めるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメントや会話、心身状況を要観察し変化に合わせたケアが行えるよう努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の意向を伺い、現心身状況に合ったケアを立案できるようカンファレンス会議や担当者会議で意見交換し介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や業務日誌、申し送りノート等を活用し情報共有に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々御本人や家族状況を把握し状況に合わせたサービスが出来るよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に行っていないが今後機会があれば取り組みを検討したい			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診の対応を行い検査結果や服薬変更等御家族に報告すると共に月2回の訪問看護に相談し指示を仰いでいる			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している協力医療機関や薬剤師に相談し合える体制であり情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医療関係と情報共有し御家族の意向を受け入れながら相談出来る体制づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に医療行為が常に必要になった場合の説明を行い 日々の生活に中での体調の変化や対応、予測される状況も事前にお伝えし事業所での対応を説明している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、災害訓練を入居者とともに実施してる		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いに反した声掛けをしないよう職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損なわないよう務めた対応を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で御本人の思いや意向を伺い自己決定されるよう促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務時間帯によって職員側の動きになっている様子も見られている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人に出来る事ははしてもらい起床時の衣類や整容に清潔感が感じられるよう心掛けている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや食事の下準備や後片付けにも出来るだけ参加されるよう声掛けし関わりを楽しみが感じられるよう心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てている 個々の摂取状況に合わせた形態や盛り付けで食べやすいように工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを実施して 自身で出来る方方にはしてもらい仕上げ磨きが必要な方には介入している マウスウォッシュでうがいされる方の介入も実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者は基本トイレでの排泄の促しを心掛け 尿意便意の確認を行い排泄誘導、排泄記録で時間間隔の把握に務めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整を行うと共に牛乳やヨーグルトや御家族の意向でヤクルト等の乳酸飲料を提供する等し排便時には腹部のマッサージをする等して対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが受診や本人不調等で入られない場合は時間や曜日に取られず週2回は入浴されるよう務めているが無理な時には清拭等での対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に応じて日中の休息を促す等して対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のセットは提携している薬剤師が対応し毎日の提供準備セット、確認、提供者は責任をもって対応し薬情をファイリングしいつでも確認出来るよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事、出来る事にやりがいを感じられるよう心掛け季節の行事に楽しんで参加され気分転換が出来るよう支援している		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に実施していないが車での外出や車中での飲食(ソフトクリーム等)を楽しめるよう支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品や床屋代、医療費はホームの立替金を使用し自身で買い物する支援は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等本人が希望されたときは都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのホワイトボードを使用し季節を感じられるような環境作りを工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーや食席でテレビを観たりおしゃべりやレクリエーションに参加したり個々に居室に自由に戻り過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの備え付けの物や御家族が準備された物や自身の馴染みの物で本人状況に合わせた危険の無い環境作りに取り組み工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口や他戸口にわかりやすい目印を工夫し迷わない動きが出来るよう心掛けている		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームたく遊

作成日：令和 6年 4月 7日

市町村受理日：令和 6年 4月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	感染症の収束状況を見ながら、消防署と地域住民の協力を得た避難訓練を実施する様期待したい。また、室内の危険個所を全職員で確認し、ケア側の個別対応についても話し合うよう期待したい。	消防署や地域住民の協力を得ての避難訓練を実施し 施設内の危険個所を職員間で周知する 入浴中等個別ケア中の避難方法や取組の話し合いをし 適切な避難訓練の実施	町内会長や消防署に避難訓練に参加してもらい 協力体制の確認 各階での危険個所をカンファレンス会議で周知 入浴中等の個別ケアの入居者の避難方法を検討し周知する	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。